

◎ 着任教員紹介その1

高橋若菜(TAKAHASHI Wakana)講師

専門：国際環境協力論

前職：(財)地球環境戦略研究機関(IGES) 気候政策プロジェクト研究員

趣味：旅行、食べ歩き

先生は出身が神戸で、2年間のイギリス留学を経て、神奈川県葉山町にある IGES に就職された後は、関東圏に在住されています。IGES では、アジアの環境国際協力について研究を行い、国内外の政策担当者や研究者と仕事をする機会に多く恵まれたそうです。専門分野は国際政治学の視座からみた地球環境政治で、「国際社会が地球環境問題によりよく対応するためには、科学の役割が非常に重要です。しかし、問題をめぐる国際協力の様相は、環境以外の要因－経済的・政治的・社会的要因－によっても大きく左右されます。講義では、地球環境問題を国際政治問題として捉え、理論と実証に基づいた研究を行って行きたい。」と抱負を語っています。

先生の今後の活躍を祈念し、また新たな知見を知求会会員に披露していただくよう切望します。

◎ 出版案内

本年の3月に、第2期生(国際文化研究専攻)の中島耕二氏らが「長老・改革教会来日宣教師事典」を新教出版社から刊行します。

◎ 宇都宮大学留学センター教員紹介その3

宇都宮大学広報誌の「宇都宮大学は今・・・」第29号2003年1月の7ページと8ページの見開きに「留学センターの教育と研究」が掲載されています。小池センター長を含めた6名の先生方による最近の近況が紹介されています。

◎ 図書館所蔵案内

平成14年度中に、国際関係論研究者にとって、大変貴重な「アメリカ国務省外交文書」が宇都宮大学附属図書館に所蔵されます。1861年以前、国務省は年度毎に外交全般にわたる文書を刊行しておらず、議会が情報を必要とする問題が生じた場合に適宜その資料を提供していました。1861年、時の国務長官シュワードは「対外問題関係文書」と題する、同年の外交全般にわたる信書からなる一巻を提出しました。それがこの資

料の始まりで、以降 1869 年を除いて毎年同様のものが議会に提出されています。これらには、信書、条約の原文、条約・外交問題に対する大統領の議会への年頭教書、対外問題に関する特別教書などが含まれています。この資料には、リンカーン大統領の年頭教書 1861-1864 年に加え、ランシング文書 1914-1920 年、第 1 次世界大戦関係 1914-1918 年、ロシア関係 1918-1919 年、ソビエト連邦 1933-1939 年、日本関係 1931-1941 年、パリ講和会議の資料などが加えられています。ぜひ、会員の皆さんが一度閲覧し、積極的に有効に活用していただくことを願っています。

◎ 国際学研究科主催サテライト公開授業開催

「水からみたモンスーン・アジア社会」という題で開催されます。会場は彩の国 8 番館産学交流プラザ 9 号室：JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線さいたま新都心駅西口徒歩 3 分において、開講時間は木曜日 5 回午後 6 時から 8 時 45 分までです。日程は、以下の通りです。

2 月 27 日(木) 中国「南水北調」プロジェクトをめぐる開発と環境
李恩民(第 18 回大平正芳記念賞受賞)

3 月 6 日(木) 中国・黄河下流域における農村共同体慣行と「水」
内山雅生(中国農村社会史)

3 月 13 日(木) アメリカの「洪水保険」
磯谷玲(国際経済学・国際金融論)

3 月 20 日(木) ベトナムの市場経済移行と紅河デルタ農村
藤田和子(東南アジア政治経済論)

3 月 27 日(木) 大規模灌漑システムと分権的管理
水谷正一(農業水利学)

教材費二千円(全 5 回)ただし 1 回四百円、申し込み方法：氏名・住所・連絡先電話番号を記入の上、以下の宛先までハガキ、ファックスもしくは e メールで。(当日の申し込みも可)

〒321-8505 宇都宮市峰町 350 宇都宮大学国際学部事務部総務係

電話：028(649)5165 FAX：028(649)5171 e-mail:uchiyama@cc.utsunomiya-u.ac.jp

下野新聞 2 月 11 日(火)の 4 面に「首都圏にアピール」と題してサテライト授業に本腰の紹介記事が掲載されました。新年度の 5・6 月に「朝鮮半島をめぐる国際関係」、秋には「W 杯から 1 年」をテーマにしたサテライト公開授業を計画中です。会員の多くの聴講を歓迎します。また知人・友人にも声を掛けて積極的に PR をして下さい。

◎ 台湾師範大学と宇都宮大学間の国際オンライン・カンファレンス開催

3 月 3 日(月)の 10 時から予定の 11 時 50 分を超えた 12 時 15 分まで、宇都宮大学附属

図書館3階の会議室にて開催されました。講師は国際学部外国人教師の李恩民博士で、コメンテーターとして国立台湾師範大学・教育学院 公民教育与活動領導学系・研究所教授兼主任・所長の温明忠博士が担当されました。演題は「中国大陸の台湾戦略を解く」として、松金講師の司会進行と情報処理センターの協力により無事終了しました。李博士は特に「兩岸の共通認識の重要性」と「学者としての客観的な判断に基づくこと」、また学術的な点を強調されました。国際オンライン・カンファレンスが果たす学術交流の可能性として今後の展開が期待されます。

◎ 国際学術交流協定締結

宇都宮大学国際学部はハバナ大学経済学部と昨年9月18日に、国際学術交流協定を締結しました。1728年創立のハバナ大学はキューバを代表する伝統校です。また大学間交流協定締結校は現在19校で、国際学部所管の提携校は復旦大学(中国・上海)、ビクトリア工科大学(オーストラリア)、祥明大学校(韓国)、ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)、エアランゲン・ニュールンベルク・フリートリッヒ・アレクサンダー大学(ドイツ)、国立台湾師範大学(台湾)の6校になっています。ハバナ大学は学部間交流協定締結の1校目になります。

◎ 第2回交流会開催案内

今年の第2回交流会は、東京支部主催により**2003(平成15)年7月12日(土曜日)の午後1時から3時まで**、東京・西新宿の**新宿三井クラブ**で開催します。東京在住の会員を中心に、皆様のご出席をお待ちしていますので、手帳に第2回交流会の予定を記していただくことをお願いします。詳細は、後日改めてお知らせします。

フォーラム 第4号からこのコーナーをラテン語のフォーラムとします。第2号から、修了生・在学生から記事を募っています。毎号何人かの記事をリレー形式で継続させていきますので、今後の展開を楽しみにして下さい。(原稿集めに苦労しています) 現在においてはまだ経済が不透明な状況です。こういう状況における就職として、一番有望なのが公務員ではないでしょうか?ただ、狭き門になりがちです。そこで、第4号に寄稿をお願いしたのは、文化の小林研究室 OB の廣保氏と社会の中村祐司研究室 OB の篠崎氏です。ぜひ、最後までご一読下さい。また、ご意見などありましたら、知求会ニュースに投稿するか次回交流会の席で本人を交えて議論を楽しんでいただけたら幸いです。廣保氏の入稿の都合により次号に掲載予定になりました。

◎ 2期生現役公務員寄稿

「ある中堅公務員の昨日・今日・明日」

篠崎 雄司

中学3年生の時に観た大学ラグビーの早大対明大戦に感動し、高校でラグビー部の門を叩

いた私は、改めてこのスポーツの虜になり、早大か慶大でラグビーをすることを夢見た。そして、一浪後、念願の早稲田大学（商学部）に合格した。

だが、入学後、早大ラグビー部グラウンドで目にした猛練習は、入部を躊躇させるのに十分だった。1週間見学に行ったが、遂に入部する勇気は湧いてこなかった。戦わずして敗れたのである。以後4年間、この挫折感をぬぐうことはできず、大学の友人達がバブル景気を追い風に一流企業に就職していく中、農家の長男という宿命もあり、「都落ち」同然に宇都宮市役所に入ったのが13年前の平成2年（1990年）である。

入所後も苦難の日々は続いた。最初の配属は生活福祉課で、生活保護のケースワークが担当業務であった。ヤクザに脅かされ、母子家庭の母親にヒステリーを起こされる毎日に、酒を飲みながら色々な人に自分の不幸を嘆いてばかりいた。

転機は入所して2年目だった。後輩の新人職員が、アルコール依存症の元ヤクザを相手に逃げずに堂々と向き合う姿を目にして、「今まで自分は何をやっていたのだろうか」と素直に反省し、目の前の仕事を、謙虚さと情熱を持ってこなしていこうと決意した。

4年目に、財政課に異動となり、予算編成などの地方財政業務に携わった。最初はやはり苦難の日々であったが、次第にこの業務が天職であると思える程好きになっていった。自分は恵まれていると心から思えた。

財政課での在籍年数が6年目を迎えた時、もっと民間企業の経営に学ぶべきではないかという思いにかられ、翌年、東京の民間シンクタンクへの一年間の派遣研修の希望が叶い、そこで民間企業の経営手法をいかに行政に持ち込むかを研究した。この研究は結局一年では十分なものにはならず、研究継続の場を当大学院に求め、現在の水道局総務課での企画財政業務に従事しながら、2年間の社会人大学院生生活を送った。

一年間の民間企業での生活を含めた13年間の公務員経験から言えば、確かに業績のノルマの圧力や、急なリストラの恐怖はない分、公務員は「気楽な商売」かもしれない。しかし、出世できる人とできない人の両方が存在するのは民間企業と変わらないし、昨今着実に成果主義が定着し、職員間の給料の格差は広がりつつある。そして何より、仕事のやりがいや情熱が持てるかは、個人の問題であり、行政と民間企業に差異はないと思う。

今後も情熱を持って仕事に携わっていきたいと思う。時々、忘れてしまうけれど……。

（国際学研究科 国際社会研究専攻 第2期修了生）

編集後記：今回は大幅に発行が遅れました。関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。限られた時間でのニュース発行、同窓生の皆様のご感想はいかがでしたか？ぜひ、今後の紙面に反映させていきたいと思っておりますので、メールを下さい。また、皆さんの記事も受け付けますので、近況報告や研究報告などさまざまな情報をお寄せいただければ幸いです。同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先およびメールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。 global@minakuru.net
